



今回は1年生対象の職業別ガイダンスについて報告します。

## ◇ 8会場に分かれて、講義を聞きました！

日時：平成31年2月7日(木) 6・7限

8人の講師の方に来ていただき、ガイダンスを行いました。生徒は事前に2つの講義を選択し、話を聞きました。以下に、それぞれの講義と生徒の感想をまとめました。

## ◇ 後藤忠雄先生(白鳥病院 院長・県北西部地域医療センター長)の講義です！

参加者：生徒59名

後藤先生は自治医科大学のご出身。自治医科大学は旧自治省、文部省、厚生省等が合同で設置し、各都道府県の出資により運営されています(授業料は無償!)。各都道府県からの定員は2人ないし3人。一般的な大学医学部とちがい、地域医療の専門家を育てて医療過疎地域(いわゆる“へき地”)等の医療を担う人材を育てる大学です。

現代の医療は、高度な専門化・分化が進み、最先端の研究開発がどんどん進んでいます。しかし一方で、大部分の健康問題に対応できる「総合診療医」「地域の健康・福祉を考えて実践する医師」が絶対に必要です。

後藤先生は、この岐阜の地で、まさに医療と住民・行政をつなぎ、家族のケアも視野に入れた、地域を基盤とした医療体制づくりに尽力されています。医療過疎地域のネットワークを作り、地域の人々、多方面のスタッフとともに複数の診療所を複数の医師で支え合う、こうしたネットワークは、しだいに全国に広がってきているということでした。

都会から離れたこの地で、患者その人らしい人生を支えるために尽力される先生の姿を目の当たりにし、医療・看護の方面に進路希望を持つ生徒たちは、より幅広く選択を考えていく貴重な体験ができたと思います。



### 【生徒の感想】

- 患者の病気を治すだけではなく、地域社会が患者を支えられるようにするということが印象に残りました。大学病院と地方(へき地)の病院をつなぐ中小病院や医者のバランスがとれるようになっていければいいと思いました。
- ドラマで取り上げられるような高度な技術をもった医者も大切だけど、高齢化や過疎化が進む現代の日本には、地域に密着した、総合的な知識を持った医者も大切だと思いました。
- 医者は“手術”をするような人ばかりをイメージしていましたが、今回の話を聞き、地域で活躍し健康な人を支えているのも医者であると考えさせられました。あらためて健康について考えることができたのでよかったです。
- 高度な技術を必要とする医療ばかりに目を向けていたけれど、地域医療の大切さを実感させられました。専門的な高度な医療と、地域の親しみのある総合医療のバランスが大切だと学びました。

## ◇ 伊藤泰啓先生(岐阜県庁 国際交流課)の講義です！

参加者：生徒55名

伊藤泰啓先生は岐阜県庁に入庁してから、多治見土木事務所、情報産業課、経済産業省中小企業庁国際室・海外展開支援室を経て、現在は岐阜県庁商工労働部観光交際局国際交流課にお勤めになっています。

まず先生の講義の中で、岐阜県庁に働く人の人数、組織、給料など、なかなか聞けない実際の話も交えながら、岐阜県庁の概要を話していただきました。また国家公務員との比較をしながら地方公務員という仕事について話してもらいました。地方公務員はジェネラリストということで、幅広い種類の仕事、地域密着で「顔の見える」仕事をしているとのことでした。

次に先生が実際に担当されている国際交流の話をしていただきました。現在はベトナム、フランス、モロッコ王国を担当されています。交渉の最前線の現場で相手国の局長級の人々との交渉におけるやり甲斐や苦勞について語っていただきました。岐阜県民と外国の人々の双方の関心やニーズをつなげ、人と人とをつないでいく取り組みに尽力されていることがよくわかりました。

まとめとして、先生の“Chance for change”というモットーについて話していただきました。外国では日本の常識が通用しないというご経験から先生が導き出された、「全ては自分が変化（成長）するチャンスである」という考え方です。安定と停滞は表裏一体です。変化を恐れることなく、役人として人の役に立つ仕事を全うしていきたいと最後に熱く語っていただきました。



#### 【生徒の感想】

- 「日本人の考え方≠スタンダード」というのには驚いた。
- 国際関係は決してお金で成り立つわけではなく、人と人をつなぐことが基礎になるということに感銘を受けた。
- 県庁の仕事は個人（担当者）に任せられることが多くて驚いた。よく考えてみると役所の人にはたくさん助けられていることに改めて気付いた。
- 県庁では、個人の独創性やアイデアが反映されるような仕事もあることがわかった。
- 国際関係の仕事に就くなら英語が大切であるということがわかった。英語頑張ろう。



- 自分の動き方次第でたくさんのことに挑戦できることがわかった。高校生の私ももっと自発的に動いて様々なことに挑戦していきたい。
- 「安定と停滞は表裏一体」という言葉が印象的だった。私も挑戦し続けたい。
- 地方公務員と国家公務員の違いがよく分かった。
- 自分一人で相手国の局長級の人と対峙するのは大変だが、とても興味がわく話だった。

### ◇ 田中淳也先生（義春刃物株式会社 海外営業企画課長）の講義です！

参加者：生徒40名

田中先生は大学卒業後、米国シアトルへビジネス留学。中国にて物流企業の営業部長経験後、帰国し、家業の義春刃物（株）へ入社。職人修業を経て、彫刻刀技術を活かした商品の開発に着手し、彫るとガラスのような美しい輝きを放つ新アート「シャインカービング」を開発。その芸術を広げるために「シャインカービングアカデミー」を設立し、社長兼アカデミー長を務める。

講座では、明確な「目的」を持つことで、「学び」のスピードが著しくUPし、それによってさまざまなスキルが身につく、「目的」を達成するとともに、次の道を切り開くという、未来の働き方、職業観を実体験に基づき、分かりやすく語っていただきました。生徒たちは、大変熱心に、また、興味深く講義に耳を傾け、将来へのモチベーションや希望、ひいては、今の学習のモチベーションを上げた様子でした。



#### 【生徒の感想】

- 自分がやりたいことを、自分から、自分の力でやったところがすごいと思った。挑戦することの大切さを感じることができた。
- 自分の持っている知識をどんどん広げていったこと、どんな商品だったらいいのかなど工夫して、失敗から学んでいったところがすごいと思いました。
- 未来にむけてどうすべきかを考え、全て一から学ぼうという意志が凄いと思った。失敗を成功へと変えていけるように、自分も努力したい。
- 「目的」「熱意」「意志」が重要であることを学ぶことができた。



- 目的があれば人は頑張れることを改めて感じました。今の勉強を怠らずに頑張って、大人になったとき生かせるようにしたいです。
- 自分の持っている知識がどう活かされるかではなく、これをするにはどのようなスキルが必要かを考えるというところが印象的でした。
- 今まで聞いてきた“仕事”とは少し違う観点で面白かった。

## ◇ 若尾守康先生（ジースプレッド株式会社 代表取締役）の講義です！

参加者：生徒 122名

やさしい世界を創りたいという思いから、ジースプレッド株式会社<G=gentle(やさしさ)+Spread(広げる)>を立ち上げられ、やさしさのメッセージを入れたお菓子の販売をされている。また、売上げの5%を集め、アジア・アフリカの国々にすでに4校もの小学校を建設されている。

「過去は無い。未来も無い。あるのは、永遠に続く今だけである」

「今、思うことを大切に。自分を信じて」

「想像力豊かに」

「続けよう！止めた時に止まる！」

「挑戦する者に奇跡は起こる。その積み重ね！」

「アウトプットはインプットを支配する」

「人や未来のために」

「1日1000回『ありがとう』と言うより、1日1回『ありがとう』と言われたい」

などの理念をもとに「やさしさで幸せな世界をつくる」ために活動されている。

2016年には、社会的貢献度が高い企業に送られる「グレートカンパニーアワード」を受賞されている。

見せていただいた動画の中に、やさしさや思いやりが人の心を動かし、最終的には返ってくるという趣旨のものがあった。映像に見入ってしまい、うなずいている生徒もいた。また、仕事を選ぶときに大切なことは、「What」や「How」よりも「Why」であると話された。なぜ、その職業につきたいのか？あなたの「夢」や「志」は何？

生徒達も自分の将来について、考えさせられた講義であった。



### 【生徒の感想】

- 勉強や能力よりも「思い」が大切である…という言葉が印象的だった。自分も「思い」をもって行動できる人になりたいと思った。
- 誰かのために「やさしさ」をもって行動できる人になりたい。
- 何となく将来誰かを幸せにし、自分も幸せにする仕事も良いと思った。
- 何気なく行なった思いある小さなやさしさも、された側は覚えていて、やさしさの連鎖が起きる…とても素敵なことだと思った。自分の利益のためではなく、誰かのために行動することの大切さを改めて気づかされた。
- 小さい目標からでも、自分のやりたいことや理想をかなえるために、色々なことに挑戦したいと思った。
- とても心温まる話だった。今までどのような思いで活動を見てみえたのかが伝わってきた。若尾社長と一緒に働きたいと思ってもらえるような人間になりたい。また、若尾社長のような熱い思いをもった方と働きたいと思った。
- ワールドビジョンの活動についてもっとくわしく知りたい。
- マサイ族の女性がとったはちみつでできた飴がとても美味しかったし、5%寄付されるなら、買ってみたいと思った。
- 今からでもできることを続けていくことも、自分の人生を豊かにすることにつながるんだと気づいた。





## ◇佐藤建明先生（株式会社サムライインキュベート エンタープライズグループチームリーダー）の講義です！

参加者：生徒72名

佐藤先生は大学在学中にフィリピンのミンダナオ島にて、NGOを設立し、離島や山間地域など教育困難エリアにおける映像授業を企フィリピンの教育委員会や一橋大学、ユニクロと協働し推進。その後、日本で株式会社リクルートにてオンライン学習アプリ「スタディサプリ」にかかわり、現在は株式会社サムライインキュベートにてオープンイノベーション事業に参画しています。

佐藤先生自身の大学時代のことやフィリピンでの活動や今のオープンイノベーションを通し、仕事を選ぶうえで大切なことをつたえてくださいました。「得意」×「好き」×「時流」をキーワードに、自分がやりたい仕事を選ぶ。そのために早いうちに得意・好きなことを見つけておくことの大事さを語ってくださいました。

### 【生徒の感想】

- まず、経歴から革命的で、とても面白かったし憧れました。好きなことも得意なこともあるのですが行動が怖くて、「1人じゃあ、、、」と思っていましたが勇気が沸きました。
- 自分に合う仕事の探し方を聞いたとき、とても良い言葉だなと感じた。好き×得意×時流を大切にしたいと思った。
- 大学生たった一人の活動が大きくなっていくことがすごいと思った。好きな仕事につきたいと考えていて、得意なことを生かしたいと思っていたが、時流までは考えていなかったの、はっとさせられた。
- 大学生で一人で外国へ行き、問題を解決しようとする行動力を尊敬したいと思いました。
- 自分の知らない世界のことを知れて面白かった。好きで得意なものを仕事にしたいと思いました。
- 佐藤先生がおっしゃっていた、どれだけ有意義なことをするかが大切ということが印象的でした。高校のテストも、与えられた時間は全員同じなので、無駄のないようにしたいし、与えられたものを最大限利用できるようにしたいと思えました。
- すごく興味深い内容だった。イノベーションは世界中に広がるようなスケールの大きい仕事で楽しくそうだった。
- ベンチャーキャピタルという仕事が面白そうだった。自分は、まだ将来やりたい仕事は決まっていなくても、自分の好きなことや得意なことを、まず見つけて将来の仕事も見つけていきたいと思いました。
- 自分の好きなことを自分の職業にただでなく、それを生かして世界に広めて活動していることがすごいと思ったし、ここまでたどり着くのにはたくさんの努力をしてきたという感じが伝わった。
- 大学を出てからの人生はなんでもできるのだなあと思った。好きと得意をみつけられるようにしたい。



## ◇ 赤見理恵先生（公益財団法人日本モンキーパーク キュレーター・霊長類学者）の講義です！

参加者：生徒62名

赤見先生は東京大学教養学部出身。大学院で動物園や水族館の（主にペンギンの）展示方法やその評価について研究。動物園にかかわる NPO 法人の立ち上げや大学研究員などを経て、2005年から日本モンキーセンター学芸員。主にイベント開催や学校連携などを通じて教育活動にあたっている。趣味はバイクとスキー、そして国内外の動物園や国立公園で野生動物を観察すること。最近ではモンゴルでウマを、エチオピアでグラダヒヒを観察した。



講義では、霊長類の種類や生息地、生息数の現状や各国の飼育施設の様子、霊長類の学習能力など多くの話をさせていただきました。私たちが知らなかった、チンパンジーの学習能力、特に一瞬で数字とその配置を記憶する優れた記憶力や各国の飼育施設が、人に見せるための施設ではなく、保護した野生動物をその種にとって、自然の生活様式に近い形で施設を整えていることなどに生徒は感心していました。また、ゴリラの密猟や生息地が奪われる現状、かわいいからといって、日本に密輸されペットとして売買されるスローロリスの話など、私たちが考えなければいけない現状についても話していただき、生徒は大変興味を持って聞いていました。

### 【生徒の感想】

- 動物の暮らしを考えた動物園があることにびっくりした。
- 動物に対しての関心がさらに深まった。
- 自分の好きなことを仕事にしている、いいなと思いました。
- サルなどの特徴についての話がとても面白かった。
- とても引き込まれる内容だった。生物の面白さをあらためて認識できるようになった。
- 自分の動物に対する考え方が変わった。
- チンパンジーが自分の思っていたよりも賢くて驚いた。
- 部活の関係で霊長類にはくわしい気でしたが、実物の映像が見られて衝撃的でした。
- モンキーセンターの特色、何をすることが一番良いのかを考えてみたいと思いました。
- 動物を守るために出来ることを知りたいと思いました。
- 動物園がただ動物を展示しているのではなく、教育や研究、保護に役立っていることを知れてよかったです。
- 知るということ、伝えていくということが大切なんだと感じた

## ◇ 村瀬裕介先生（株式会社ジェイエスティ 留学・海外インターンシップ担当）の講義です！

参加者：生徒69名

村瀬先生は、高校時代は英語が大の苦手だったそうです。しかし、小学校の時にいったニカラグアでの経験がきっかけで、海外に興味を持ち続け、大学時代にはオーストラリア・カナダへの留学の他、約20ヶ国を周遊されました。その経験をもとに、今の会社に入社され、現在は学生向けの留学や海外インターンシップの担当をされています。

講座では旅行会社の仕事がどのようなものを説明してくださいました。パラオの国旗を例に出して、日本とパラオのつながりを知ると、不思議とパラオに関心を抱き、パラオを訪れてみたくなりました。「知る」ことは、「経験」を豊かに彩ることであり、旅行を通じて人々に様々な経験をしてもらい、人々の心に残るような旅行を提供したい。僕にとってのニカラグアがそうであったように、人々が新しい一歩を踏み出すきっかけをつくりたいとおっしゃっていました。

村瀬さんの話の中心は、この「きっかけ」についてでした。ただ何となく生きるのではなく、目標を持って生きることが大切。苦手なのは経験不足なだけ。自分に自信がないのも経験不足なだけ。物事に対して準備をして臨めば、自信もつくし、必ず周囲にも認められる。挑戦もしないで最初から無理だとあきらめるのはもったいない。何事も、勇気を出して最初の一歩を踏み出すことが大切。一歩を踏み出した後は、走り続けることが大切。最初の一歩さえ踏み出せばあとは何とかなるものだ。そのような話を熱く語ってくださいました。

また、アシスタントとして来てくださった本校卒業生の山田将輝先輩は、初めての海外ボランティアで受けた衝撃について語ってくださいました。貧しいのに底抜けに明るい笑顔の子供たち。昼間は子供たちと本気で遊んで、夜は仲間と本気で語り合い、体はヘトヘトになるのになぜか心が軽くなっていく不思議な経験。そして、研修の最後に仲間から生まれて初めて「かっこいい」と言われて気づいたそうです。『一生懸命に全力で生きるってかっこいいんだ・・・。』それまで、何事も適当にこなし、なんとなく大学を選び、何も考えずにただ何となく生活していた自分に衝撃が走り、それからは生き方が一変したそうです。



### 何事も、一生懸命に全力で！！

### 【生徒の感想】

- テストも近づいて点数をとらなきゃ！と焦っていたけど、もっと大きく「大学」とかじゃなくて、何になりたいかという「将来」を見据えて落ち着いて考えたいです。
- 色々なことに興味を持つことの大切さを知りました。色々な国について学んでみたいなと思いました。苦手なことも逃げずに頑張りたいです。
- 今私は数学が苦手だと思っているけど、それは自分の経験不足だということを知った。また、色々なものに対する興味を持つことが将来へのきっかけになると知り、これから色々なことに挑戦しようと思った。

- 高校生活をどう過ごしたらいいかなどのアドバイスをもらうことができたのでよかったです。
- 中学の頃から海外に携わる仕事をしたいと思っています。色々なやり方があると思いますが、自分のやりたいやり方で、全力で夢を実現させたいです！！
- 夢を全力で語れる大人になりたいなと思いました。毎日を全力で生きて、もっともっと色んな人について興味を持ってつながっていききたいです。私の夢は世界の恵まれない子供たちを一人でも多く助けることなので、夢に向かって“今”を全力で生きていききたいです。

## ◇ 太田貴都先生（株式会社リンクアンドモチベーション テクノロジー・マネジメントユニットエンジニア）の講義です！

参加者：生徒 81名

太田さんは、関高校のご出身。名古屋大学農学部応用生命科学科をご卒業後、同大学の大学院を経て、現在、株式会社リンクアンドモチベーションにお勤めです。

「変えられないもの＝他人・感情・過去」と「変えられるもの＝自分・意識・未来」を生徒に意識させるペア活動で講義は始まり、一気に教室の雰囲気はほぐれました。人が何かを選択する理由「4つのP philosophy＝大事にしている考え profession＝活動内容 people＝人・仲間 privilege＝特権」を挙げ、「夢」を理由に将来の道を選ぶのは選択肢の一つでしかない、今、夢や目標がなくても心配する必要はないと話されました。文理選択・学部選択・志望校選択など、様々な「選択」が始まる1年生がほっとする内容でした。また、モチベーションの「因数分解が」「目標の魅力 will×達成可能性 can×危機感 must」だという話題も印象に残りました。大学院で「後世に残る技術」の面白さに気づいた太田さんは、学んだ技術を活かして「世のため、人のため」になる仕事がしたいと、今の職場に入られました。「誰かの問題を解決する」「誰かの願いを実現する」ために、ITの技術を活かし、人の幸福につながる仕事をするのが目標だそうです。

生徒たちが事前学習で考えた、ITを使って「登校するとき、信号が変わるタイミングを教えてくれるサービス」などのアイデアも評価してくださり、質問もやりとりしながらの和やかな講義でした。「選択」する理由の一つとは限らないこと、大学や大学院へ行ってからも新しい道が開けること、を教えていただいた貴重な時間となりました。

### 【生徒の感想】

- 「受験勉強が最後は楽しくなった」という話に衝撃を受けた。勉強も追究していったら「can＝達成の可能性」が増えて、楽しくなれるかな、とやる気が出た。
- 「過去は変えられないから、未来を変えたい。そのために技術を使いたい」という考えがカッコいいと感じた。心が傷ついて亡くなってしまうような人を救いたい、という考えに共感した。人の心を救う仕事にも興味が湧いた。
- 進路がまだ決まっていなくて焦っていたが、今はまだゆっくりじっくり考えてもよいのだと、少し安心できた。でも勉強だけはちゃんとやりたい。
- 「変えられるものに意識を向ける」ということが印象的で、今まで、他人とか感情とか過去とかを気にしていたけれど、そんなことよりも、自分が変えられることに意識を持てるようになったのでよかった。
- 夢がはっきり決まっていなくても、自分の好きなことを続ければ夢が決まってくる、という話がとても参考になった。
- 大学で習ったことをそのまま仕事にしなくてもよい、という言葉がとても心に残って、文理選択をすることで将来が全部決まってしまうように感じていたけれど、新しい道もあると知ることができてよかった。

